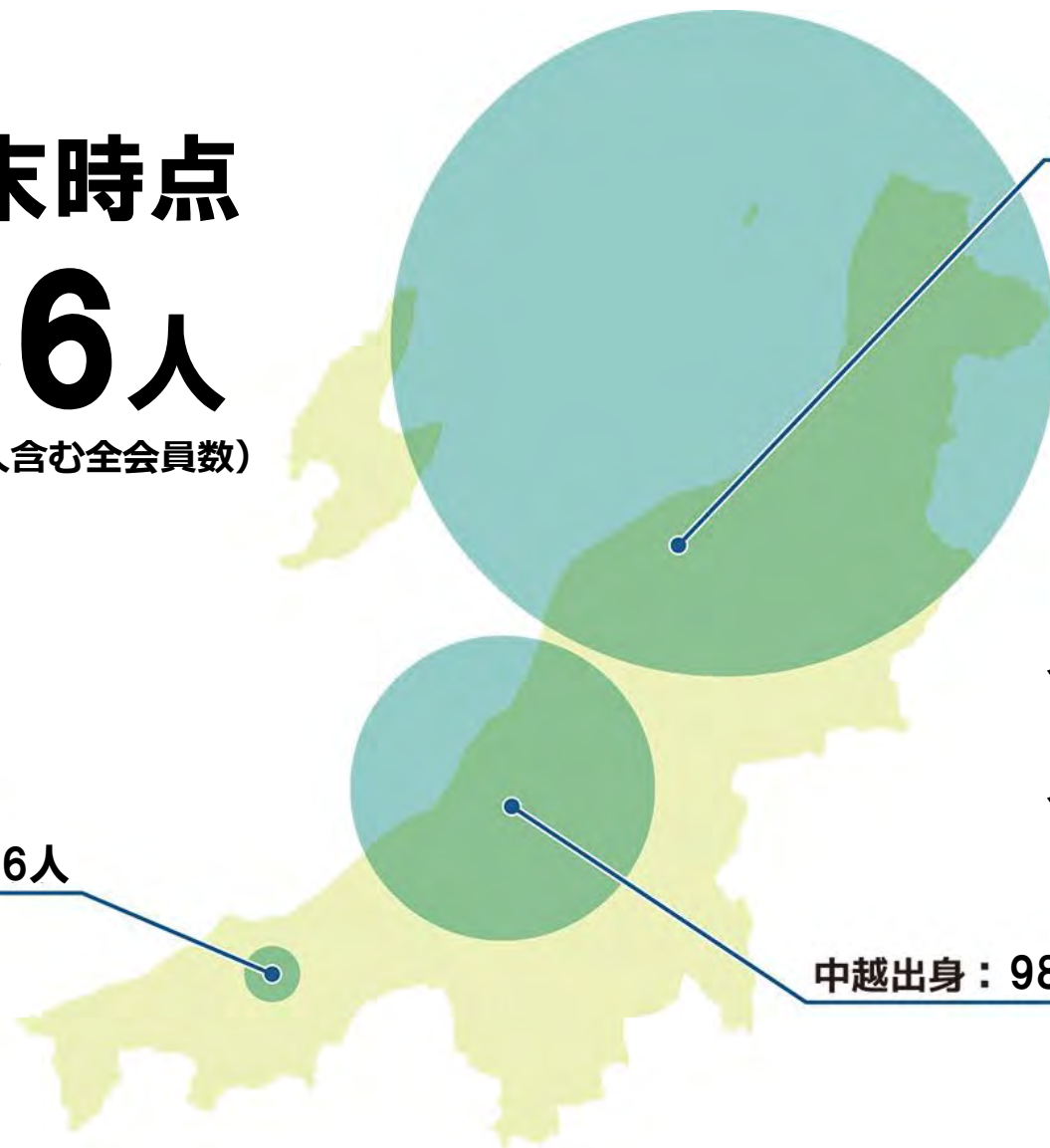


にいがた鮭プロジェクト 2023年度の取り組み

2024年3月
にいがた鮭プロジェクト事務局
(新潟日報社統合推進センター内)

23年度末時点
3,486人

(社会人含む全会員数)



下越・佐渡出身：1,916人

県内会員： 220人
県外会員：3,266人

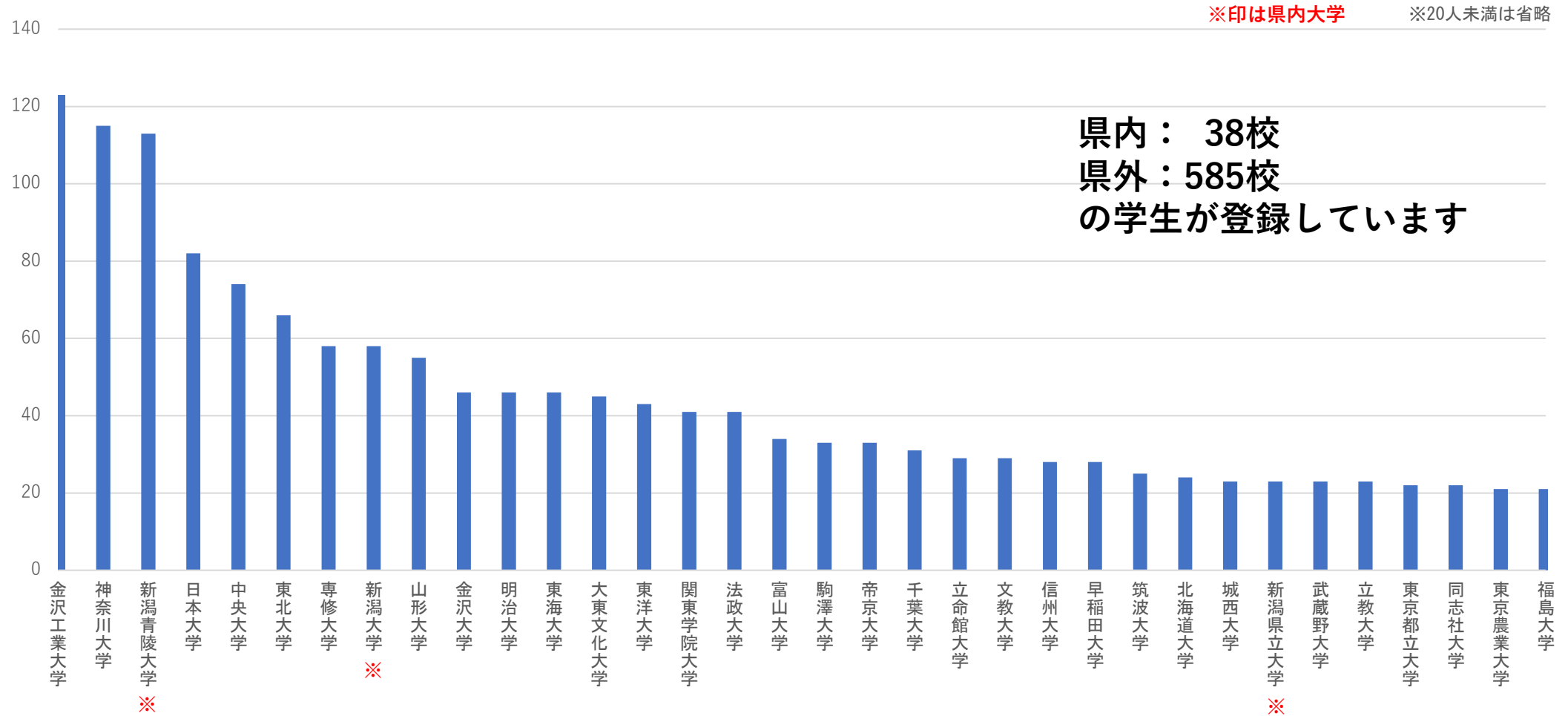
上越出身：206人

中越出身：983人

県外出身県外在住：61人

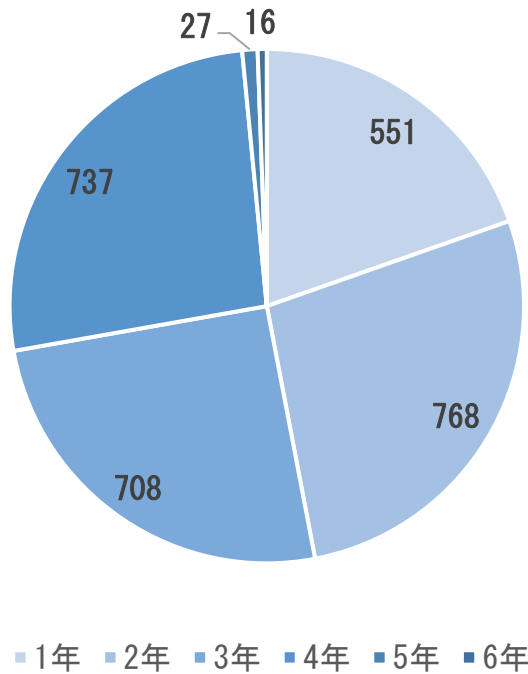
出身地不明：320人

学生会員登録の状況② 大学別

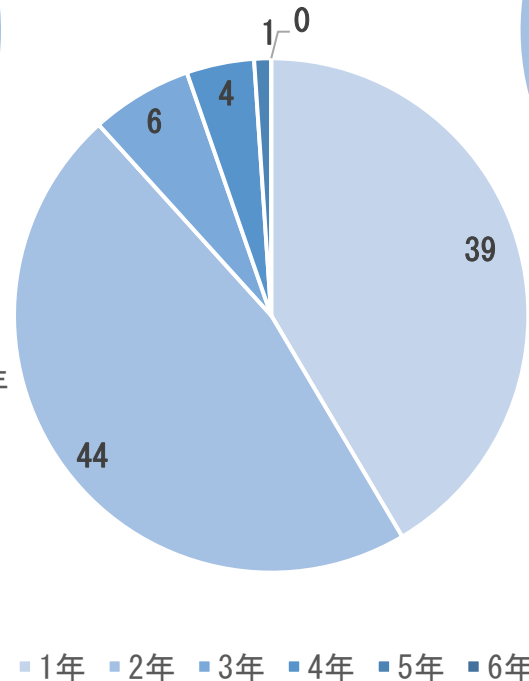


学生会員登録の状況③ 学年別・居住地別

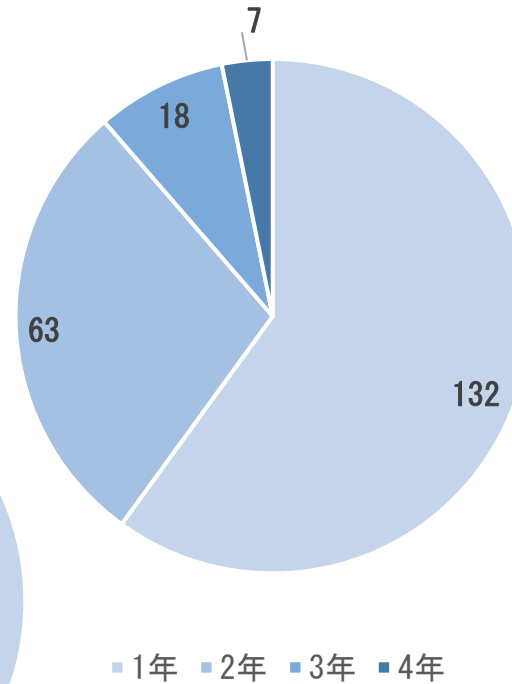
大学生



大学院



短大・専門



地域	人数
1都3県	1,819人
新潟県	(※) 515人
北海道・東北	381人
北関東	169人
中部（東海北陸）	406人
近畿	166人
中国四国	31人
九州沖縄	22人

※県外の学校に通っていても、新潟県を現住所として登録している学生が含まれています。



ホームページトップ



実際の記事

「はたらく・たべる・まじわる・つながる」をテーマにした県内各地の情報や、サポーターズネットワーク会員のイベント情報やインターンシップ情報なども発信しました。



サポーターズインフォメーション

県内9大学・短大、1高専（新潟大学、新潟青陵大学、新潟青陵大学短期大学部、新潟県立大学、新潟国際情報大学、三条市立大学、新潟食料農業大学、敬和学園大学、新潟産業大学、長岡工業高等専門学校）に通う31名が5チームに分かれ、学生目線で新潟の魅力を発信しました。

運営協力：新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部社会連携センター

チームいくらちゃんの活動

1. 鮭プロHPの取材・発信

はたらく、たべる、まじわる、つながるをテーマに県内各地を取材。

2. イベントの企画・運営

イベント班が9月3日（日）鮭プロフェスin万代シティの企画・運営。

3. SNSでの発信

広報班がX（旧Twitter）、Instagramで発信。



情報発信③ チラシ・ポスター



ポスター



高校生向けチラシ
(卒業時)



大学生向けチラシ
(入学、進学時)



大学生向けチラシ
(通年)



TVCM・メディアシップ館内マルチビジョン・JRビジョン・各種サイネージ・ビッグスワンマルチビジョン

情報発信④ 新聞、フリーペーパー等

3月27日付朝刊 15段広告

6月25日付朝刊 特集紙面

半5段広告

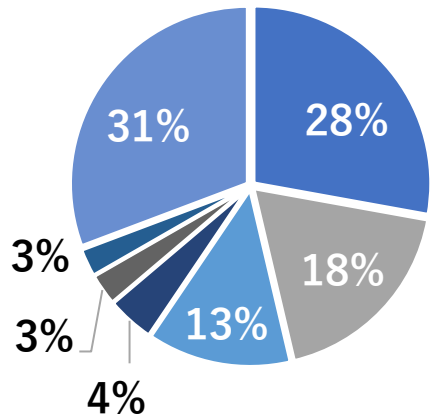
8月5日付朝刊 5段広告

年に3回、新潟日報朝刊紙面にて鮭プロの活動を紹介する特集を掲載。
 ほかにも新潟日報朝刊や新潟日报社が発行するフリーペーパー-assh(アッシュ)でも広告を掲載しながら周知を図っています。
 イベントの認知経路として、「保護者からの紹介」が上位を占めており、保護者向け広報も鮭プロでは欠かせません。

10月12日付 n-assh

23年度末時点 1,175人

友だち登録の内訳



- 県外大学
- 保護者
- 県内大学
- 若手社会人 (入社2年目以降)
- 高校生
- 新社会人

※アンケート回答者



Instagram



X (旧Twitter)

LINE登録者の属性に合わせた情報発信を行ったほか、チームいくらちゃんの広報班にも協力してもらいながらInstagram、X (旧Twitter) でも新潟の話題や鮭プロイベント情報などを発信しました。

【令和5年度 県内自治体 二十歳のつどい】

県内自治体に協力いただき、各地の「二十歳のつどい」で鮭プロPRチラシを配布しました。

協力市町村：新潟市、長岡市、三条市、柏崎市、新発田市、小千谷市、加茂市、十日町市、見附市、村上市、燕市、糸魚川市、妙高市、五泉市、阿賀野市、佐渡市、魚沼市、南魚沼市、胎内市、聖籠町、弥彦村、田上町、阿賀町、出雲崎町、湯沢町、津南町、刈羽村、関川村、粟島浦村

2024年1月7日(日)に行われた「令和5年度 新潟市二十歳のつどい」では、来場者配布パンフレットに鮭プロPR広告を掲載したほか、PRブースを出展。鮭プロ公式LINEに登録した方を対象に、本人が撮影した写真をプリントし、会場でプレゼントしました。

- 実施日：2024年1月7日(日)
- 会場：朱鷺メッセ 展示ホール内
- LINE登録者数：134人(1月1日～7日)
- フォトカード配布枚数：35枚



主催事業：交通費無料キャンペーン

新潟とつながる機会を増やすために、3～4月のスタートキャンペーンとして帰省用片道乗車券を県外高速バスは10名、新幹線は10名にプレゼント。5月以降は毎月、高速バスは10名、新幹線は2名を対象にプレゼントしました。

2023年3月～2024年2月は1,657人の応募があり、長期休みの帰省を中心に利用されています。



帰省用 上越新幹線
片道乗車券

Aコース【県外学生対象】・帰省用新幹線片道乗車券 合計2名様
【対象路線】
上越新幹線 東京⇒新潟間
北陸新幹線 東京⇒上越妙高間
(協力：JR東日本新潟支社)



帰省用 県外高速バス
片道乗車券

Bコース【県外学生対象】・帰省用県外高速バス片道乗車券 合計10名様
(協力：新潟交通株式会社)

主催事業：プレゼントキャンペーン

毎月のプレゼントキャンペーンとして、県内のイベントや美術展等の鑑賞券をプレゼント。新潟とつながるきっかけをつくっています。

- 6月
長岡まつり大花火大会
有料観覧席チケット
- 7月
長岡米百俵フェス
ペアチケット
- 8月
アルビレックス新潟
ホームゲーム観戦チケット

ほか



2023年6月プレゼント ラインナップ



Aコース【全員対象】・長岡まつり大花火大会2023年8月2日観覧チケット 5組10名様
(観覧チケットは事前抽選による抽選です。)

※提供プレゼント随時募集中です!

主催事業：にいがたふるさと応援便

にいがたふるさと応援便

ふるさとを離れ、県外で頑張る学生たちへ地元新潟から思いを込めて、食品などの応援便を送ります!

【募集人数】500名 【応募期間】6月17日(土)~7月2日(日)

新潟日報

にいがたふるさと応援便

ふるさとを離れ、県外で頑張る学生たちへ地元新潟から思いを込めて、食品などの応援便を送ります!

【募集人数】500名 【応募期間】6月17日(土)~7月2日(日)

新潟日報

にいがたふるさと応援便

ふるさとを離れ、県外で頑張る学生たちへ地元新潟から思いを込めて、食品などの応援便を送ります!

【募集人数】500名 【応募期間】6月17日(土)~7月2日(日)

新潟日報

6月17日付朝刊 15段広告

にいがたふるさと応援便

ふるさとを離れ、県外で頑張る学生たちへ地元新潟から思いを込めて、食品などの応援便を送ります!

【募集人数】500名 【応募期間】6月17日(土)~7月2日(日)

新潟日報

にいがたふるさと応援便

ふるさとを離れ、県外で頑張る学生たちへ地元新潟から思いを込めて、食品などの応援便を送ります!

【募集人数】500名 【応募期間】6月17日(土)~7月2日(日)

新潟日報

6月20日付朝刊 募集広告

にいがたふるさと応援便

ふるさとを離れ、県外で頑張る学生たちへ地元新潟から思いを込めて、食品などの応援便を送ります!

【募集人数】500名 【応募期間】6月17日(土)~7月2日(日)

新潟日報

にいがたふるさと応援便

ふるさとを離れ、県外で頑張る学生たちへ地元新潟から思いを込めて、食品などの応援便を送ります!

【募集人数】500名 【応募期間】6月17日(土)~7月2日(日)

新潟日報

8月3日付朝刊 報告紙面

6月、11月に県外で学ぶ学生を対象に、故郷の思いを届ける新潟ふるさと応援便を実施しました。抽選で各回500名、合計1000名に応援便を発送しました。

応募期間 6月17日(土)~7月2日(日) / 11月5日(日)~19日(日)

応募者数 6月:877件 / 11月:1,349件

学生本人応募 6月:409件 / 11月:431件

保護者応募 6月:468件 / 11月:918件

協賛

6月:(株)ウオロク、越後ファーム(株)、JAえちご中央、(株)たかの、中越運送(株)、(株)広報しえん、(株)雪国まいたけ

11月:(株)ウオロク、岩塚製菓(株)、(株)あんフーズ新潟、マルタスギヨ(株)、JAえちご中央、(株)たかの、中越運送(株)、(株)広報しえん

主催事業：にいがた Cafe



県外大学4校とメディアシップでにいがたCaféを開催し、新潟の暮らしや仕事をテーマに県内企業の若手社員と学生が交流しました。大学生協に協力いただき、県産のお米やお菓子などを販売しながら、大学構内でも新潟の食を大いにアピールしました。

- 6月27日(火) 専修大学 18名参加
- 6月28日(水) 中央大学 19名参加
- 8月23日(水) メディアシップ 15名参加
- 11月17日(木) 神奈川大学 39名参加
- 24年2月2日(金) 日本工業大学 12名参加

参加無料・服装自由

新潟で暮らす、働く
にいがた Cafe
中央大学

新潟に興味のある人集まれ!
新潟のお土産つき

2023 6/28 (wed)
中央大学 多摩キャンパス
グローバル館 7階
17:00 ~ 18:40 (要事前申込)

にいがた鮭プロジェクト (新潟日報社・新潟県)

参加希望の方は
キャリアセンターキヤリア支援課へ
締切: 6/26(mon) 事前申し込みはコチラ

気軽な雰囲気でお米・団体の担当者や交流できます。
若手社人との交流を通して、新潟での暮らしのヒントや業界研究の場として
ご利用ください。

株式会社ササガアサヒ
株式会社北越銀行
株式会社ビエフエス
新発田市
ニギハヤヒ

にいがた鮭プロジェクトとは
【新潟・津波】
にいがた鮭プロジェクト事務局 新潟日報社 新潟県センター内
電話☎025-355-7438 ウェブ★https://sakeproj.jp

主催事業：鮭プロフェス



新潟の魅力、元気を発信

学生がフェス企画 新潟中央区

県内の大学生ら有志が新潟の元気を発信するイベント「鮭プロフェス」が9月3日、新潟市中央区の万代シティパークで開催された。ダンスや音楽など熱いパフォーマンスのパフォーマンスが繰りまわされた。

にいがた鮭プロジェクトの活動をPR、「進学など動を頻する学生連帯メンバーで新潟を離れた人が再び新潟を目指そう」という思いで、取材した情報をネットやフリーペーパーで発信していることを説明した。

フェス運営のリporterを務めた飯沼幸夫さん、松田尚希さん(20)は「活動を通じて新潟の豊かな地域性を発信することができた。多くの若者に魅力を伝えたい」と力を込めた。

産学員が連携して着目する新潟をつなぐ、応援する新潟日报社の「にいがた鮭プロジェクト」の一環、フェスは昨年続き2回目で、県内の学生たちが多く参加し、多くの人がにいがた鮭プロジェクトの活動をPR、「進学など動を頻する学生連帯メンバーで新潟を離れた人が再び新潟を目指そう」という思いで、取材した情報をネットやフリーペーパーで発信していることを説明した。

フェス運営のリporterを務めた飯沼幸夫さん、松田尚希さん(20)は「活動を通じて新潟の豊かな地域性を発信することができた。多くの若者に魅力を伝えたい」と力を込めた。



9月3日(日)に新潟市中央区の万代シティパークで開催しました。昨年度同様ステージ事業、飲食ブース、物販PRブース、フォトスポットコーナーを設け、猛烈な暑さのなか1200人が来場しました。出演・出展者の交渉、広報活動、当日運営は「チームいくらちゃん」が担当。ステージ出演した高校生や大学生からは「来年も参加したい」「これからも一緒に新潟を盛り上げていきたい」などの声が寄せられ、新潟の若者の元気を発信するとともに「若者を応援する鮭プロ」を大いにPRしました。



主催事業：鮭プロサロン@東京

11月11日(土)に東京都内でアルビレックス新潟のホームゲームをパブリックビューイングで楽しんだほか、新潟ビンゴなどのゲームで同郷の仲間と盛り上がり、交流を深めました。学生12名が参加しました。



主催事業：その他

- 8月12日…アルビレックス新潟×湘南ベルマーレ@デンカビッグスワン
夏休みの交流に、ビッグスワンの個室観覧を15人にチケットプレゼント、当日12名が参加しました。メルマガ、LINE等で告知、1週間で70件超の申し込みがありました。
- 9月29日(金)…アルビレックス新潟×川崎フロンターレ@等々力スタジアム
関東での試合は勝てない!というジンクスもある中、3対2で勝利!学生8名が参加しました。



主催事業：保護者向けセミナー



**保護者のための
就活応援セミナー**
～活動を成功につなげる関係づくりとは～

開催日 3月9日(土)
13:30～16:10 予定 (12:00 開場)

会場 新潟日報メディアシップ分館「メディアプラス」
3階 大会議室 (新潟市中央区万代 3-4-3)

第1部 13:40～14:40
【講師】 就活が変わる、企業も変わる
【講師】 企業人事部長 佐藤 浩二
【講師】 企業人事部長 佐藤 浩二
【講師】 企業人事部長 佐藤 浩二

第2部 14:50～16:10
【パネリスト】 就活の傾向、就活生の希望
【パネリスト】 企業人事部長 佐藤 浩二
【パネリスト】 企業人事部長 佐藤 浩二
【パネリスト】 企業人事部長 佐藤 浩二

同時開催 鮭プロジェクト相談コーナー (入場無料、予約不要)
12:00～13:10、16:10～17:00 (セミナー開催中はCLOSED)

時代の流れとともに就活を取り巻く環境は大きく変化しています。現在の就活事情をしっかりと理解し、保護者だからこそできる支援の仕方について考えるセミナーを開催しました。サポーター会員を紹介するための相談コーナーや資料設置コーナーを設置し、保護者との接点を作りました。定員50人に対し44組61人が応募、当日は32組41人が来場しました。質疑応答も活発に行われるなど参加者の満足度は非常に高く、終了後のアンケートでは「誰に相談すればいいのかわからなかったのが有難かった」「就活への心構えができた」「今後もこのような機会を設けてほしい」などの声が寄せられました。

- 日時: 2024年3月9日(土) 13:30～16:10
- 会場: 新潟日報メディアシップ分館メディアプラス3階 大会議室

連携事業：キャリア教育

県内産業や企業への理解を深めることを目的に22年度から3年間、新潟県の連携事業として県外進学が多い普通科高校(巻高校、高田北城高校、長岡向陵高校、北越高校、上越高校の5校限定)でキャリア教育を行っています。

新潟日報社未来読者推進室による「事前学習」では新聞の読み方やメディアリテラシーといった情報活用能力を養い、県内で働く若手社会人講師による「講義・ワークショップ」では県内で働くことへの理解を深めます。

講師役を務める地元企業は「地域貢献の場」と捉えています。これまでに1700人を超える高校生が参加し、「地元企業を知ることができた」「進路が明確になった」といった意見のほか、「地元を盛り上げていきたい」などの声も多く上がるなど、着実に郷土愛が育まれています。



もし自分が上越市の職員だったら地域の課題をどう解決するか。上越市寺町3の上越高校で、交通政策や観光といったテーマで地域課題を考える授業が行われた。実際にその分野を担当する市職員らがサポートしながら、生徒たちは担当になったつもりで課題の把握や解決策の提案に取り組んだ。

新潟日報社と県が若者のUTターンを促進するために展開している「にいがた鮭プロジェクト」の一環。授業は11月29日にあり、1年生約280人が参加した。

クラス単位で「都市整備・交通政策」「多文化共生」などのテーマを割り振り課題を議論。都市整備のクラスでは「電車の本数が少ない」「子どもの遊ぶ場所が少ない」などの具体例を挙げ、6人ほどの班ごとにスライドを使って発



にいがた 鮭プロジェクト

表。市職員は「課題の背景を考えることで、より根本的な解決策を見つけられる」とアドバイスした。1年の大崎庵土さん(15)は「地域の課題について解決策を考えるのは難しかったが、実際に現場で働く人の話はとても参考になった」と話した。

地域の課題 解決探る 市職員とアイデア磨き



地域の課題や解決策について考える上越高校の生徒たち=上越市寺町3

連携事業：県外大学1,2年生向け企業見学バスツアー（新潟県）



低学年の時から新潟県内企業について知ってもらい、新潟で働くこと、暮らすことに興味を持ってもらうため、長期休みを活用した企業見学バスツアーを実施しました。

【23年夏季実施】

①23年8月22日(火) 新潟・新発田コース	①23年8月30日(水) 長岡・三条コース	①23年9月5日(火) 上越・柏崎コース
株式会社ハードオフコーポレーション、 株式会社廣瀬、株式会社第四北越銀行	朝日酒造株式会社、株式会社コロナ、 パール金属株式会社	株式会社有沢製作所、Jマテ.カッパー プロダクツ株式会社、シモダ産業株式会社
22名申込、19名参加	14名申込、13名参加	4名申込、4名参加

【24年春季実施】

④24年2月20日(火)	⑤2月27日(火)
株式会社栗山米菓、 株式会社D.I Palette(旧第一印刷所)、 岡三にいがた証券株式会社	株式会社遠藤製作所、デジタル・ アドバタイジング・コンソーシアム株式会社、 新潟県労働金庫
15名申込、13名参加	12名申込、11名参加

連携事業：新潟ライフデザインカレッジ（新潟市）

新潟県内外の学生を対象にロールモデルとなる社会人と一緒に自分らしいイキカタを考え、これから取り組む就職活動に生かしてもらおうと実施しました。昨年度に続き2年目となる令和5年度は新たに講座を体験できるプレイベントをオンラインで開催した後、本講座は対面で3回行いました。



プレイベント 11月4日(土)	第1回 11月18日(土)	第2回 12月9日(土)	第3回 2月17日(土)
オンライン開催	会場:新潟日報メディアシップ	会場:複合施設SAN	会場:MOYO:Ri
16人参加	5名申込、4名参加	20名申込、13名参加	12名申込、5名参加
宮崎芳史さん (NIIGATAマイプロジェクト☆LABO実行委員長、 新潟県立高校教諭)	曾我智恵里さん (サイボウズ株式会社ブランディング担当)	金澤李花子さん (フリーランス編集者、複合施設「SAN」副館長)	山倉慎二さん (イチゴ農家、ショークロお兄さん)

連携事業：ふるさと新潟サロン feat 江南区（新潟市）



11月24日（金）@日産スタジアム 8名参加

新潟市江南区の事業「江南区魅力発信プロジェクト」の一環で、ふるさと新潟サロンを神奈川県横浜市で開催しました。地元で活躍するUターン経験者である先輩方との交流を通して新潟生活の良さを考える時間を持ちました。第2部は日産スタジアムでアルビレックス新潟の試合をみんなと一緒に応援し、新潟米のおにぎりや、「勝ちの種」を食べながら仲良く観戦しました。

会員企業・団体

23年度末時点

102社 130口

自治体無料会員 17

有料会員 13



セミナー・交流会の実施

オンラインセミナー
(年2回)

リアルセミナー・交流会
(年2回)

移住者に魅力学びPRを
企業、自治体向け オンラインセミナー



産業者の連携で本県出身の若者と新潟をなく「にいがた鮭プロジェクト」(新潟日報社主催)の企業、自治体向けセミナーが19日、オンラインで開かれた。地方移住を支援するNPO法人「ふるさと回帰支援センター」(東京)の稲垣文彦副事務局長(長岡市出身)が、U・Iターンの実情などについて講演した。セミナーで稲垣さんは、移住の相談件数は右肩上がり、新型コロナウイルス禍以降はテレワークなどで、現状の仕事を変えずに移住を希望する人が増えていると解説した。「豊かさや幸せを求める中で地方を目指す」と語り、移住には「ワークライフ・バランスと地域貢献」「農」ある暮らしがキーワードになると語った。

自治体が移住者を獲得する上で、地域内の「先輩移住者」に聞き取りし、地域の優位性を見つめ直すことが重要だと強調。その上で「その地域や企業に求れば、どんなライフスタイルができるのかをPRしてほしい」と呼びかけた。



7月20日付朝刊

5月に開催したリアルセミナー

サポートズインフォメーションでの情報発信 (月2回)

第1回 公開講座 5月18日(木)	新潟日報メディアシップ日報ホール 「選ばれる新潟になるために～新潟の可能性～」 第1部 講演「若者に選ばれるために企業が取り組むべきこと」 株式会社カイヤボ 代表取締役 井上洋市朗氏 第2部 パネルトーク「選ばれる新潟になるために～新潟の可能性～」
第2回 オンライン講座 7月19日(水)	U・Iターンの現状と先進自治体の事例紹介 認定NPO法人ふるさと回帰支援センター 副事務局長 稲垣文彦氏
第3回 対面・交流会 10月23日(月)	新潟日報メディアシップ分館3階大会議室 「若者が帰ってきたい新潟をつくるには？」 第1部 講演「新潟へのUターン就職の現状」 株式会社エンリージョン 代表取締役 江口勝彦氏 第2部 ワークショップ「若者が帰ってきたい新潟をつくるには？」 第3部 参加者交流会
第4回 オンライン講座 2月13日(火)	「新潟の採用力向上のために～人事コンサルティングの現場から」 株式会社モザイクワーク 取締役 平松しのぶ氏



鮭プロHP



LINEでもサポートズ
インフォメーションを紹介